

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(1)学校としての戦略	(1)-1 聖霊創立100周年に向けて	(1)-1-1 聖霊の全構成員が、南山学園の存在意義や未来の姿を共有することができるよう「人間の尊厳のために」を意識・理解し、ともに創立以来のモットー「光の子として生活せよ」の元に日々の教育活動に心を込めてあたる。	→	→	→	→	→	2025年度は、南山学園と合併してから30周年の年にあたる。一方で聖霊会からシスターの派遣が無くなる年度でもある。これらを強く意識して①教育モットーの達成②建学の精神と教育理念の浸透③教育活動の蓄積と伝統の振り返り、を3つの柱に構成し、校長・宗教科・宗教教育委員会を中心にワーキンググループを作る。			
	(1)-2 教育理念の具体化	(1)-2-1 2024年度に創立75周年を迎え、シスターによる記念講演会、記念行事のパンテリンドームでの運動会、写真アルバム＆アーカイブズと聖霊会&聖霊中高アーカイブズ、記念事業の聖家族像の設置、冬コート・夏カーディガン・体操服見直しなどを通して、あらためて本校の存在意義を確認した。100周年に向けて、昔の事をたずね求めて、そこから新しい知識・見解を導きながら、時代の先を見据えた教育活動を目指す。	→ スタッフおよび関連する臨時の委員会および運営委員会を中心に推進					ワーキンググループにおいて、2024年度に迎えた創立75周年の機運を繋ぎながら、創立100周年に向けてカトリック系女子一貫校として持続的かつ発展的に推進していくための準備を進める。			
	(1)-3 聖霊校としての戦略	(1)-3-1 アドミッションポリシー（AP）に基づく生徒募集活動の点検、中学・高校の教育課程の元、新しい学力観に基づいたカリキュラムポリシー（CP）の構築、大学入試改革に対応しながら、女子中高一貫校として新たな時代を生きる女性を目指すグラディエーションポリシー（GP）の開発など、聖霊の学校像を組み立て、賢明な児童に選ばれる学校づくりを目指す。	→	→	→	→	→	2024年度に策定したスクールポリシーを基盤に、生徒募集活動の点検と修正を入試推進委員会と広報部を中心に進める。そのために広報活動と入試の結果および2024年度中に収集したアンケート等を分析し、改善を図る。			
	(2)-1 校舎の教育的活用	(2)-1-1 校舎や施設設備、キャンパス全体の活用について、年間を通して教育的効果を向上させながら、活力ある学校生活を工夫する。	→	→	→	→	→	施設・設備の経年による修繕費は財政面で大きな負担となっているが、一方で体育館の施設空調設備の設置が急がれている。施設空調（冷房）設備の整備のための補助率が2分の1に引き上げられたことを受け（期限あり）、2026年度中の設置を目指し検討を進める。そのために、当初の中期計画の前倒し、2026年度中の設置を目指して検討進める。			
		(2)-2-1 新指導要領の骨子が2024年度秋に示される見込みです。高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習の指導内容について、最短期間を想定して校内での研究を進め、中学生徒募集から高校卒業後の進路指導までの新しい6年一貫の指導課程の検討など準備を進める。	→	→	→	→	→	次期新学習指導要領の議論が2024年度の秋に始まり、各教科で学びの本質となる「見方・考え方」を設定する・カリキュラム・マネジメントを提起する・多様な背景を持つ生徒たちへの対応を改善するなど5つのポイントが示された。教務部が中心となり、現行の新学習指導要領の深化と合わせて、次期新学習指導要領の情報収集と研究を進めて有機的なカリキュラムの作成と移行を目指す。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度				
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)	
(2)教育・研究	(2)-2 中学高校の教育課程の改訂と大学入学共通テストへの対応	(2)-2-2 大学入学共通テストに対して、これまでの大学入試動向を踏まえつつ、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、新しい時代の進路指導の在り方を全教職員の共通する指導目標に位置付ける。大学入試共通テストはまだ改革の道半ばにあるため、引き続き想定と修正を続けながら高い完成度の対策で対応する。	→					2025年度・大学入学共通テストに情報Ⅰが加えられたが、万全かつ丁寧に対応を進めてきたため順調に進めることができた。今後の修正等についても、進路指導部を中心に研究を進め対応する。				
		(2)-2-3 中学3年生で実施する職業体験やハローワーク講座、高校生の校外事業所でのインターンシップなどの活動を、それぞれの年齢にふさわしい職業観の育成や、将来の進路選択の基となる活動として継承する。	→					引き続き、担当部署や担当学年が中心となってキャリアプログラムを充実させる	これまでの積み重ねの中で育ててきたキャリアプログラムを安定的に推進し、プログラムへの参加者について前年度並み（中3生全員、高校156人）を目指す。			
	(2)-3 オーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修の見直し	(2)-3-1 利用航空便、参加生徒数、引率教員のありかた、現地校滞在日程などについて、海外研修として安定した形態、参加生徒保護者の評価の向上などを目標に、年度ごとの評価と修正を継続する。	→	→	→	→	→	アイルランド語学研修については、国際情勢と安全性の面から当分の間実施を見送る代わりに、ニュージーランド語学研修を引き続き実施する予定である。 2025年度は、オーストラリア海外研修は生徒20名＋教員3名、ニュージーランド語学研修は生徒20～24名＋教員1名で募集する。オーストラリア海外研修先の姉妹校（MSJ）は、12月初旬に来校する予定であり、2019年度以来5年ぶりに相互交流が実現する。				
	(2)-4 南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携	(2)-4-1 学園創立100周年記念事業を検討するためのワーキンググループの設置と交流を通して、共同参画する場面の増加とともに具体的な計画を立て実践する。 地理的な要因を超えて、部活動・文化活動・オープンスクールなどでの児童生徒間の交流や提携、さらに教職員間の教科指導などでの交流の機会を検討する。	→	→	→	→	→	2024年度は、2度のタウンホールミーティングが本校で実施された。理事長の来校に伴い、何れも全教員参加とした。共同体としての一致を目指すことから、今後も全教員参加というかたちで進める。				
	(2)-5 「EVE, My 青春！」の継続実施と実施場所等将来設計の検討	(2)-5-1 愛知芸術文化センター・コンサートホールでの屋内開催（フルバージョン）と、Hisaya-odori Park・メディアヒロパでの屋外開催（120人規模）セットで実施する形を基本として、芸術文化センター・コンサートホール（抽選制）の代替措置を「EVE My, 青春！実行委員会」で検討しつつ、伝統ある行事を継続実施していくとともに、行事の将来像を検討する。	→					「EVE My, 青春！実行委員会」による運営 コンサートホールの抽選結果によって柔軟に計画	発祥の地である「久屋大通りパーク（旧もちの木広場）」にて開催するために、2024年度は2部制で実施した。成功裏に収めることができた結果、他の施設で実施する必要が無くなった。今後は久屋大通りパーク（旧もちの木広場）での実施を前提に「EVE, My 青春！実行委員会」で改善を重ねて行く。			
	(2)-6 中学校入試ならびに高等学校入試の総合的な見直し	(2)-6-1 最新の入試結果を踏まえて入試日程、入試内容、対外的な広報活動等を年度ごとに見直し、それぞれの定員生徒数を安定して確保しながら、生徒層の向上、拡大を目指す。	→					入試推進委員会および広報部およびスタッフや運営委員会を中心に推進	広報活動と入試結果および2024年度中に収集したアンケート等を分析し改善する。公立入試が大きく変わって3年目になるが、その影響等を精査しさらに洗練された入試の運営を目指す。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(3)施設・設備	(3)-1 ICT機器の教育利用を中心とした教育環境整備	(3)-1-1 ICT教育機器の導入を実施し、生徒用のタブレット導入や教職員へのICT教育機器配備を進めながら、学習指導における効果的な活用や校務における運用等を進める。その成果に基づいて次期ICT教育環境の整備計画を立案する。	PC教室のデスクトップPC再リース 生徒用タブレット端末導入2年目、ほか教員用タブレット端末	PC教室のデスクトップPCリースⅡ期1/5年目 生徒用タブレット端末導入3年目(完成年度)、ほか教員用タブレット端末	PC教室のデスクトップPCリースⅡ期2/5年目 生徒用タブレット端末導入4年目、ほか教員用タブレット端末	PC教室のデスクトップPCリースⅡ期3/5年目 生徒用タブレット端末導入5年目、ほか教員用タブレット端末	PC教室のデスクトップPCリースⅡ期4/5年目 生徒用タブレット端末導入6年目、ほか教員用タブレット端末	2024年度から年次進行でタブレット1人1台の学習環境を整えている。2025年度からはインフラの整備だけでなく、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげるための情報機器であるため、ICT教育研究委員会と教務部を中心に教員の研修等を計画・実行する。			
		(3)-2-1 施設設備の保守管理・定期点検等に必要な経費を見極めながら、年間での保守・環境整備計画を立案する。	電気設備更新	空調設備更新	電気設備更新、 浄化槽更新	電気設備更新	電気設備更新	10年単位の長期修繕計画を基本とする。直近5年間の中期計画は、毎年度の設備の耐用年数・部品供給限界と教育活動への効果を基準として整備優先度を決定しており、2025年度は耐用年数限界を迎える高圧受電ケーブル更新を行う。			
	(3)-2 校舎の施設設備の確認と更なる施設設備整備の検討	(3)-2-2 第2体育館、グラウンドやテニスコートなど、補修や改修の必要性を見極めて整備計画を検討し、可能なところから改修・整備を進める。	財政状況だけでなく施設維持の必要性や安全性の観点から、優先度を意識して実施計画としている。					第2体育館の屋根の老朽化には部分修繕で対応し、部品供給限界を迎える普通教室棟のGHP入替を優先して行う。テニスコートは、表土の入替とラインテープ貼替を経常修繕費の範囲内で実施する計画である。			
(4)社会・地域貢献	(4)-1 募金活動	(4)-1-1 聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒からの献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続ける。 国内外内の被災・戦災地域等に向けて生徒会などによる募金活動、学年単位や部活動単位で進められる募金活動を積極的に支援する。	カトリックの意味するギフトを意識し募金活動を実践する					学校として、聖霊降臨祭、クリスマス聖式等の宗教行事において募金活動を継続する。また、生徒会や学年単位を中心とした生徒活動として、災害復興支援や戦災地域支援など、国内外への支援としての募金活動を実施する。			
	(4)-2 ボランティア活動	(4)-2-1 夏季休暇中のボランティア活動だけにとどまらず、学校として継続的な支援活動を模索する。	奉仕の精神を元に経験を重ねる					キリスト教世界観に基づく教育の一環である奉仕活動として、希望者による夏期休業期間中のボランティア活動募集を積極的に行い、前年度並みの参加者数を目指す。また課外活動団体によるボランティア活動も継続して推進する。			
	(4)-3 地域との連携	(4)-3-1 公立陶生病院、愛知県赤十字血液センターや瀬戸市観光協会との連携のほか、中学3年生の職業体験において瀬戸市を中心とした事業所に生徒受け入れの協力をお願いする。	実践を通して自己を見つめる					コロナ禍以降、職業体験の受け入れ先を確保することが非常に厳しい状況であり、4年連続で実施できていない現状にはあるが、生徒から手紙を送ったり、教員がご挨拶に伺うなど、今後も丁寧に関係を保ち、諸団体・諸施設との連携を継続する。			
		(4)-3-2 創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」で、生徒が持ち寄った花束を、瀬戸市長をはじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届ける。	奉仕する側と奉仕される側の等価値を認識 2025年度より総務部が中心となって推進し、担当学年である中学1年生の学年団と連携を取って進める。そうすることで伝統と現実的な対応のバランスをとる。					新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、ようやく担当学年の生徒全員の参加が叶った。2025年度は訪問先の回復を試みる。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(5)財政計画	(5)-1 財政的課題の認知と維持継続	(5)-1-1 経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等、財政面において収支均衡を目標として収入確保に向けて努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、スクールバス運営の財政改善に向けた料金改定や路線の見直し、ICT教育環境整備計画推進のための実習経費の徴収等を含めて継続的に検討・実施する。	→	→	→			職員会議等で、継続的に行ってきた聖霊校の財政課題についてあらためて周知する。収入確保については確実な定員確保と補助金の獲得に努める。また全教職員で取り組んでいる光熱費の節約など、財政改善のための小さな試みも持続する。財務体質改善のため、2028年度に学納金改定を計画している。計画が遅延することのないよう、遅くとも2026年度には結論を出す必要があるため、2025年度からその準備に着手する。			
	(5)-2 キャンパスのメンテナンスコスト	(5)-2-1 広大なキャンパスのメンテナンスコストについては、中期的な整備計画に加えて長期的なマスタープランの策定を進めることで、警備、清掃、施設・設備と緑地の維持管理など分野ごとの必要性と財政収支の状況を見極めながら、全体として支出の抑制に努める。	→	→	→	→	→	2021年度に設備に関する長期修繕計画を立てて以降、老朽化の進行や部品供給限界を考慮して毎年見直ししながら計画を実行している。2024年8月、老朽化のために保守契約が結べなかったGHPの入替を2024年8月に実施しており、メーカー保守が切れる2025年9月から、新たに保守契約を取り交わして故障等に迅速に対応できる体制を作る。これによりコストはアップするが、定期点検整備を常駐の施設管理委託業者に作業させる等によりランニングコストの抑制に努める。緑地管理においては、賃上げによる委託契約上の人件費コストが増大するところは、ロボット草刈機を導入するなどしてコストダウンにつなげる。			
(6)組織運営と人材育成	(6)-1 校務組織について	(6)-1-1 役職人事や部署の配置および配属人数等、校務分掌組織全体の改編について年度ごとの評価をしながら継続的に検討する。	新教務部長	生徒徒指導部長 新広報部長	生徒徒会部長	新副校長 新中学教頭 新総務部長	新教務部長	部長人事を含む役職者人事において、次世代のリーダーとなる人材育成を意識した計画とするため、副部長的ポジションなど新たなロールの設置を検討する。			
		(6)-1-2 長時間労働の抑制のため、勤務時間内での会議のあり方、部活動、学校週番、勤怠管理や校舎管理方法なども併せ、様々な業務について総点検を進める。	部活動改革 職員室退室時間の短縮	部活動改革 職員室退室時間の短縮(前年度から更に15分)	部活動改革 職員室退室時間の短縮(継続)	部活動改革 職員室退室時間の短縮(前年度から更に15分)	部活動改革 職員室退室時間の短縮(継続)	2019年度より学校の「働き方改革」が始まったものの大きな変化は起きていない。議論は停滞しており具体的な方策を立てるに至っていない。部活動改革は部活動検討委員会を立ち上げて2年目になる。アンケートを3回取り、部活動の数を減らし複数人顧問を強化するべく動いている。2025年度も、労働時間の抑制に向けて、全ての教員が「これまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、生徒たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすること」の理解を深め、「時間」や「豊かさ」への意識を高めるよう働きかける。			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-4 聖霊高等・中学校》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
	(6)-2 教員の構成について	(6)-2-1 定年退職者数見込や教員組織全体としてバランスの取れた年齢構成とすることに留意しつつ、本校独自のカリキュラム構成に応じた教科ごとの授業数や教員数に基づく教員構成について継続的に見直す。	退職者3名分/国語・社会・技家、前倒し採用1名分/英語、AI採用1名分/英会話を採用する	前倒し採用2名分/数学・養護教諭、2025年度前倒し採用未決定1名分を採用する	前倒し採用2名分/国語・英語を採用する	前倒し採用2名分/英語・体育を採用する	退職者4名分（国語・理科・美術科2）を採用する	定年退職前の退職が増えた。理事会の承認を得て、単年度あたり2名の前倒し採用を行なっている。2026年度採用は、2024年度に採用できなかった英語科1名と前倒し採用対象の数学科1名・英語科1名・養護教諭1名の計4名の専任採用を予定している。			

*1) 評価欄は、○（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。
進捗を把握するため○（1点）、△（0.5点）、×(0点)、-（0点）で算出する。